

Special Interview

特集

「視点」槍田松瑩 国際大学理事長

## 第42回 経済界大賞 受賞者発表

小池百合子 東京都知事

都政改革には俯瞰した「鳥の目」と実行する力が必要

# アメリカとどう向き合おうか

総論

孤立主義の次期大統領と日本経済へのインパクト 20

トランプ政権誕生で長期株高へ 藤田勉 24

経済格差を軽視しすぎた支配層とメディア 津山恵子 28

「情に訴えかけられるのは無駄」

トランプとの向き合い方 戸田光太郎 32

データで見る日米関係 34

Top Interview

個人投資家の信用を取り戻し株式の長期的保有を促進する 清田 瞭 日本取引所グループグループCEO 84

持たないことが強さにつながる「ゼロの効用」 村井史郎 シークス会長 36

地域に根差す強みを生かし人とのかわりを提供する 山村輝治 ダスキン社長 88

シリーズ温故知新

第65回「道」

フランスでの最大の発見は「私は日本人である」ということでした

高野悦子 岩波ホール総支配人(当時) 96

News Report

カジノ法案成立でパチンコ業界の「皮算用」

新開発の液晶に自信、強気に攻めるJDI

HiisとANAが支援する「2023年宇宙の旅」

ヘア慎重論の火消しに躍起の三井住友銀行・國部頭取

定年退職者にも大人気、急成長するラップ口座の買

赤字転落企業が続出、苦難続きの鉄鋼業界

「IoTから自動車販売まで 事業目的は「世の中を変える」

藪崎敬祐 エスケービズム社長 52

金子源 アクティブソース社長 54

上田雄太 2B社長 56

吉川正 ローター社長 58

「知」の伝道者 和崎信哉 前編 92

WOWOW会長

12



小池百合子・東京都知事

燎々トーク

ゲスト 樋口宏江 後編 128

志摩観光ホテル総料理長

金の卵発掘プロジェクト 2016 結果発表

グランプリは

久我一総 (オーセンティック) に決定! (ジャパン社長) 116

連載

深読み経済ニュース解説

WORLD INSIGHT 永濱利廣 62

グローバルニュースの深層 広木隆 64

実録! 関西の勇士たち 高橋和夫 66

永田町ウオッチング 眞島弘 68

霞が関番記者レポート 山田厚俊 100

カオス(混沌)の国 インド市場を知る 帝羽ニルマラ純子 106

年収1億円の流儀 江上治 108

スポーツインサイドアウト 二宮清純 110

中村龍明の ミッション110番 112

Dr.加藤俊徳の脳番地塾 114

特別企画 謹賀新年 71

PHOTO REPORT シェアリングエコノミー協会 98

HEADLINE イノベーターズ 118

MARKET EXPRESS 新時代を創る経営者たち 121

大人のエンタメ 書評 126

FROM EDITOR 127

都政改革には俯瞰した「鳥の目」と実行する力が必要

2016年。日本の政治ニュースのメインを飾ったのは、やはり小池百合子東京都知事だ。女性初の首都の顔。情報公開や改革の旗を掲げて、ブラックボックスに切り込むなど、その分かりやすい政治行動は世論の高い支持を得てきた。

ただ、世論は期待を裏切られた瞬間にいつも簡単に大バッシングが変わる。最近では、五輪競技場見直しや豊洲新市場問題などで既得権という壁に阻まれる場面もある。

しかし、小池知事の最大の応援団である「世論」に因應するためには、常に強大な敵や障害物と戦い続けなければならない。今後も次々に繰り出す改革政策や理念は何なのか。単独インタビューした。

聞き手〓政治ジャーナリスト／鈴木哲夫

東京都知事

小池百合子

(こいけ・ゆりこ) 1952年兵庫県芦屋市生まれ。カイロ大学卒業後、通訳、ジャーナリスト、キャスターとして活躍。92年日本新党公認で参議院初当選。93年衆議院に鞍替えし当選。新進党、保守党を経て自民党入党。環境大臣、防衛大臣、総理大臣補佐官、自民党広報本部長、総務会長を歴任。2016年8月女性初の東京都知事に就任。

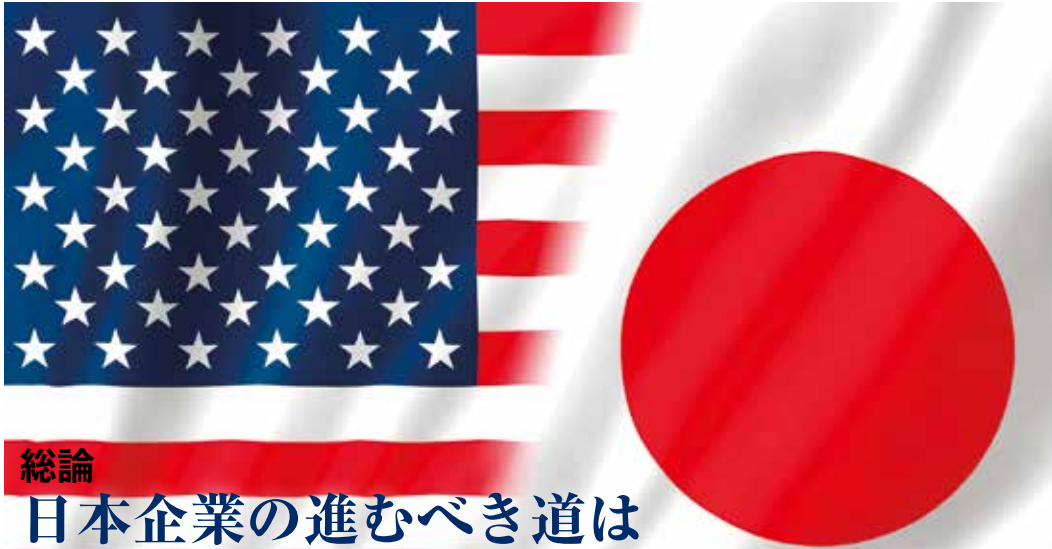
写真=幸田 森



特集

# アメリカと どう向き合うか

ドナルド・トランプ米大統領の誕生で、日米関係は新たな時代を迎えることになる。選挙前の、「トランプ当選なら株価暴落」といった懸念は、瞬間、現実となったもののすぐに反転、ニューヨーク・ダウは市場最高値をつけ、東証平均株価も年初来の最高値をつけた。何度か倒れながらも一代で莫大の財を築いた新大統領の経済的手腕に、いつの間にか多くの人が期待し始めている。しかし油断は禁物だ。暴言癖のある新大統領のひとことで、世界の情勢が一気に変わることもある。だからこそ、今必要なのは本質を見極めること。今、アメリカで何が起きているのか。世界はどこに進もうとしているのか。その中において日本はどう動くべきなのか。(本誌特別取材班)



総論

# 日本企業の進むべき道は 孤立主義の次期大統領と 日本経済へのインパクト

**トランプ旋風の前提は  
80年代の日米摩擦**

「トランプ次期大統領が当選してから、ニューヨーク便、ワシントン便の利用者が増えていきます。どんな政策を打ち出すのか、どんな人脈があるのか。そのリサーチに行っているようです」と語るのは、ANAホールディングスの片野坂真哉社長。この言葉を裏付けるのが経団連の榊原定征会長だ。

「11月29日からアメリカに経団連ミッションを派遣したが、トランプ氏の当選が決まってから、急遽参加したいという人が増えた」

何しろ選挙日当日まで、大半の日本人がヒラリー・クリントン氏当選を信じて疑わなかった。ところが結果は大どんでん返し。クリントン氏なら今までに築い

た人脈を活用できるし、今後の政策もある程度読める。その思惑がすべて崩れてしまった。

では今後、日本は、アメリカとどのような関係を築いていけばいいのか。経済、安全保障などの面で日本はアメリカに大きく依存しているだけに密接な関係は今後も維持したい。とはいえ新大統領は未知な部分が多過ぎる。どう付き合っていけばいいのか。ろうか。

「日米の関係を整理してみたらしい」と榊原経団連会長は言う。すると何が見えてくるのか。榊原会長がこう語る。

「政治、外交、安全保障、経済等、すべての面でアメリカは日本にとって最も重要な国だが、一方でアメリカにとっても日本は非常に重要な国だ。経済面だけをとつても、日本企業はアメリカに8千拠点を展開しており、直